

国際交流で感じた事

関根加菜子

みなさん、カレッジリーダーという言葉聞いたことはありますか？ラボの国際交流プログラムに参加したことのあるラボっ子は聞いたことがあるかもしれません。カレッジリーダーとは、引率者としてラボっ子と一緒に国際交流プログラムに参加する大学生ラボ活動の一つです。

私は、2013年の夏、カレッジリーダーとしてアメリカ・ユタ州へホームステイをしてきました。カレッジリーダーとして参加しましたが、私自身、自分のホームステイを楽しんですることができました。教会に行ったり、乗馬を体験したり…!異文化に触れるというホームステイを思う存分楽しめた一か月でした。その中で、ラボっ子たちの成長を目の当たりにし、私自身多くのことをラボっ子から学ぶことができました。この国際交流を通し、感じた2つのことを紹介します。

1つ目は「伝える」ということです。私の引率したラボっ子の一人にこんな子がいました。日本で集合したときからとても元気のいい子でしたが、いざ現地についてオリエンテーションキャンプを終え、ステイに入ろう!となったとき、「英語が喋れない。わからない。」と、不安を口にしました。私は英語がわからなかったら、日本語でコミュニケーションをとって見たらどうだろうという話をしました。ステイ中の電話連絡では、楽しんでいる様子でした。そして最終日、その子は日本語混じりの英語でホストファミリーとコミュニケーションをとっていました。詳しく聞くと、ファミリーに日本語を教えながらステイを楽しんだようです。

ラボっ子たちを見ていく中で、やはり「伝える」という気持ちが大切なのだと思います。英語が難しくても自分が知っている単語で気持ちを伝えてみる。英語がわからないときはジェスチャーを交えながら日本語で気持ちを伝えてみる。そうすることであつという間に打ち解けることができるのです。それは、どこにいても同じことだと思います。日本にいても自分の気持ちを伝えようとしなければ、相手は自分のことを理解できるはずはありません。言語が違って、伝えようとすれば気持ちは伝わるのです。今回ラボっ子達の一か月を見た中で、大切なことを改めて学ぶことができました。

2つ目は、大学生になり、外国に一か月間ホームステイに行く、そしてその中でラボっ子の引率者として参加するということはなかなかできる体験ではないということです。引率者の大変さ、そして受入団体側の大変さ。それを知ると同時に、日本の家族、そして送り出してくれた人たちへの感謝。みなさんの体験した国際交流の裏側を知ることができるのです。今年の夏、私は今しかできない、今だからこそできる経験ができたと思っています。ラボっ子の中には、カレッジリーダーの存在を知らない人も多くいるのではないのでしょうか？興味を持ったら、ぜひ自分のチューターなどに聞いてみてください。私は、大学生になったらカレッジリーダーに挑戦するという目標があったから、大学生までラボを続けてこられました。

高校生でしかできないこと、大学生でしかできないこと。それぞれにしか経験できないことがたくさんあるはずです。「伝える」ことを大切に、いろいろなことに挑戦してみてください!